

みて、みて、ダンゴムシ見つけたよ

子どもたちは、興味の対象との関わりを通して様々なことに気付き、関わり方を変えながら遊びを続けます。この園では毎年、日常の自然な異年齢交流の中で、5歳児から3歳児へとダンゴムシの居場所が伝わっています。そのため、園庭の花壇やプランターの下にはダンゴムシがいることを、子どもたちは皆知っています。この事例では、3歳児の個々の虫探しが、次第に共通の話題になり友達と一緒に探し関わるようになった姿から、様々な気付きをしている場面を見取っています。

子ども（3歳児）

深井保育園

場面1【素朴な気付き】ダンゴムシとの出会い 4月下旬

子どもたちがバケツやカップを持ち、花壇周辺に行く。そして、モゾモゾと動く**ダンゴムシを発見**し、くぎ付けになる。最初は個々で探していたが、ダンゴムシの話が友達との共通の話題になり一緒に探します。

ダンゴムシが動く様子に興味津々の子どもは、見つけたダンゴムシを物や手のひらに載せ、真剣な表情で**上から横からじっくり観察**する。

ダンゴムシに慣れて、次第に触れる子どもが増えてくると、手のひらに載せては**見せ合ったり、大きさ比べをしたりする**ようになる。

絵本や図鑑を保育者や友達と見て、「足が何本ある」「赤ちゃんが生まれる」などを知り、知ったことや気付いたことを話題にする。



場面2【関連付けの気付き】ヤマモモ食べたよ 6月下旬

園庭に落ちているヤマモモの実を見つけた子どもたちが「**ダンゴムシ、ヤマモモ食べるのかなあ**」と疑問に思い「ヤマモモ置いてみたい」と言う。飼育ケースにヤマモモの実を入れ、次の日見ると**ヤマモモにダンゴムシが集まり、食べた跡があるのを見付ける**。「うわあー！ダンゴムシ、ヤマモモ食べたあー！」とみんなで喜び合い「じゃあ、**他の物は食べるのかな？**」と、オリーブの実や花びらなど園庭にある落ち葉以外の物を集める。



場面3【探索の気付き】ツルツルして歩けない 7月上旬

飼育ケースに小枝を入れて見ていると、ダンゴムシが小枝に登ってきた。**小枝の横や下を歩くダンゴムシに興味津々の表情でじっくり見る**。小枝の端までくると「落ちちゃう」とハラハラして見ていたが、落ちずに上手にくると向きを変えてまた歩き出した。園庭でも小枝に**ダンゴムシを載せて観察**した。「**鉄棒に載せたら歩くのかな？**」と疑問に思い、小枝から鉄棒へと這わせて歩かせようとしたが、ツルツルと滑ってすぐに落ちてしまった。「あれ？何でやろう？」とダンゴムシを見て、「このダンゴムシは大きいから重いのかな」と言う。**鉄棒は滑って歩けないダンゴムシが、土の上を歩く様子を不思議そうに見ている**。



【考察】 ダンゴムシを見つけて、**足や動きなどに気付く素朴な気付き**をする。「どんな物を食べるのか」疑問に思い、**確かめようと関わり関連付けの気付きを楽しむ**。更に、「足が何本あるのか」「赤ちゃんが生まれる」など絵本等で知った情報を関連付けて、実際に観察したり確かめたりして友達に言い、気付いたことを共有し合うようになる。飼育ケースに入れていることで、毎日ダンゴムシの**世話や観察をするようになると探索の気付きをする**。葉っぱ以外の甘い食べ物も食べることや、小枝は歩けるが鉄棒のようなツルツルした所は歩けないことなどを発見する。

この事例の園は、「科学する心」の育ちを捉えるための活動を特定した前年度の保育を振り返り、活動を特定せずに子ども主体の遊びに焦点を当ようと考えました。子どもの目線に合わせ、テーマを『子どもの気付きからはじまる保育』としました。そのため、「子どもがどんなことに興味があるのだろうか?」「どんなことに心を動かしているのだろうか?」という視点になり、保育者にも多くの気付きや学びがありました。

保育者（子どもの気付きからはじまる）

深井保育園

前年度までの取り組みで見えてきた「子どもたちの気付き」

P.11 参照

- ◎ **素朴な気付き**：「あっ!」「おもしろい」「たのしそう!」などの素朴な偶然の気付きから、子どもたちの育ちのストーリーが始まる。
- ◎ **関係付けの気付き**：「これ、前とおんなじ」「見たことある」と繰り返して遊ぶ中で、関係付けの気付きが生まれてくる。
- ◎ **探求・探索の気付き**：「どうしてだろう?」「なんだろう?」という気付きが生まれ、子ども自身で考えやってみよう!とする姿が探求・探索の気付きになってくる。



「子どもの気付きからはじまる保育」における保育者の役割

	年齢毎の気付きの特徴	保育者の役割
0歳	あっ!おもしろい!! 偶然の気付きからはじまる	子どもの気付きを捉えて、心が動く環境を用意する
1歳	あれ?なにかな?やってみよう! 繰り返したり、真似したりしながら楽しむ	子どもの気付きを一緒に楽しむ
2歳	あれも!これも!おもしろい!! 興味をもって、試してやってみよう!	気付きに共感し、繰り返し楽しめるようにする
3歳	おもしろいね!たのしいね! 友達と気付き共有する	気付きを友達と共感し、楽しむ姿を見守る
4歳	こうしたら、こうなった! 友達と試したことを確認し、自信に繋がる	気付きが確信できるように、もう一度試せる環境をつくる
5歳	一緒にやってみよう! 友達と協力し、共有する	友達との関わりを見守りながら、相談相手になり一緒に疑問を解決していく

保育場面

【素朴な気付き】 触れる子どもが増えてきた (4月) (P.14 場面1)

保育者：ダンゴムシに興味をもつ姿を捉え、ダンゴムシの写真や絵本、図鑑、ポスターなどを子どもの手の届くところや見やすい場所に用意する。

子どもの姿：早速図鑑を見て、足がたくさんあることや赤ちゃんが生まれるということに興味をもつ。図鑑と見比べしながら、本物のダンゴムシをひっくり返してお腹を調べたり、足がたくさんあることを確認したりする。

【関連付けの気付き】 ダンゴムシのことを知り関わるようになってきた (5月)

保育者：飼育ケースを用意する。

子どもの姿：飼育ケースの中にダンゴムシを入れ始める。「みんなでダンゴムシを育てよう」と話す。「どんな所にいるのかな?」「土がいるなあ」「ダンゴムシって葉っぱ食べるねんて」「隠れるための石もいるねんて」と知った内容を友達と話し合い、必要な物を手分けして集める。隠れるための石探しでは、園庭の隅から小石を見つけてきては、ダンゴムシの大きさと比べ、何度も石探しをしていた。飼育ケースでダンゴムシの住みやすい環境を作り始めると、今までカップにダンゴムシを入れていた子どもも、カップの中に同じように落ち葉や砂を入れ、自分なりに住みやすい環境を工夫するようになる。

(その後 P.14 場面2)